

広島大学の人類史的使命を継承して

風薫る佳節を迎えました。環境省の「自然共生サイト」に認定された東広島キャンパスには、新緑の梢より野鳥の囀りが響き、生命の息吹が感じられます。このキャンパスは、新たな知の象徴的拠点の相次ぐ誕生に、静謐ながらも大きな期待に包まれています。今春開設されたイノベーション創出拠点「Science Knot(サイエンス ノット)」棟、そして本年8月に開校する米国アイダホ大学広島キャンパスが、その双璧を成しております。

サイエンス ノット棟は、文部科学省「地域中核・特色ある研究大学強化促進事業(J-PEAKS)」の重点拠点と世界トップレベル研究拠点「WPI-SKCM²(超物質拠点)」との一体化により、産学官の英知が交差する共同研究施設であり、知の融合の象徴であります。100人を超える研究者が一堂に会し、学問の境界を超えて研鑽を積むこの空間には、多様な科学分野の知を堅く結び、新たな価値を紡ぎ出す「結び目(knot)」たらんとする強い願いが込められています。

一方、アイダホ大学広島キャンパスは、半導体分野における国際的人材の育成を掲げ、全課程を英語で履修する学士課程プログラムを始動させます。

本学とアイダホ大学との交流は、今を遡ること75年、戦後復興の揺籃期に端を発します。初代学長・森戸辰男氏が発信した復興支援への請願に同大学がいち早く応え、樹木の苗や種子、図書を寄贈されたあの日より、両大学の絆は被爆瓦の寄贈や学生交流を通じ、連綿と受け継がれてまいりました。

また、広島市内の霞キャンパスにおいては、大学初となるワクチン・医薬品製造拠点や、放射線影響研究所と合築する新棟が、その威容を現しつつあります。さらに、本学発祥の地たる東千田キャンパスでは、被爆遺構である旧理学部1号館の保存・再整備を通じ、新たな平和教育・研究機関の創設を広島市と進めています。

焦土の中より出発した広島大学は、今や国立大学最多の12学部、4研究科・1研究院を擁する、中四国を代表する我が国屈指の総合研究大学へと飛躍を遂げました。99カ国・地域から集う約2,000人の留学生を含む、1万5,000人を超える学生が切磋琢磨し、25万人を超える同窓生が世界の諸分野で指導的役割を果たしております。この歩みは、先人の不断の献身と努力の結晶であり、ここに改めて深甚なる敬意を捧げます。

混迷を極める現代、ウクライナや中東の地では戦火が絶えず、世界は深い闇の中にあります。こうした時局だからこそ、「平和の大学」を標榜する本学が担うべき責務は、かつてないほどに重いと云わざるを得ません。

私は学長就任以来、一貫して「平和を希求し、チャレンジする国際的教養人の育成」を旗印に掲げ、不退転の決意で邁進してまいりました。このような理念を持つ大学は、世界広しといえども、広島大学以外にはありません。世界最初の被爆地に根を下ろした本学の、人類史的使命を厳粛に継承し、希望に満ちた未来を切り拓くべく、さらなる歩みを進めてまいる所存です。

越智光夫



【Hiroshima University】の魅力や情報をあなたに「プラス(+)」、【HU】とあなたが「つながる(+)」という願いを込めて。

CONTENTS

- 01 散詩語録
- 03 学長対談 知の交差点
日本大学 理事長 作家 林 真理子氏 × 越智 光夫
- 06 旬なトピックを世界に届ける HU TIME
- 07 特集 | 広島大学が描く、未来のカタチ #4 働く
- 13 研究者人生を導く 私の座右の銘
- 15 大型外部資金を原動力に 広島大学の全学改革が加速
- 17 HU PRISM
- 19 卒業生インタビュー 私も広大です
- 21 Focus on! 人から深掘るHU
- 23 HU-Style
- 25 HU TOPICS
- 27 広大生のアクティブライフ!
- 28 読者アンケート・プレゼント
- 29 広島大学への寄附・基金

社会は、多種多様な仕事によって成立しています。私たちは何のために働くのか。より良い働き方とは何か。「働く」について改めて考えてみませんか。



広島大学 SNS

- 広島大学 (Hiroshima University)
- 広島大学 | LinkedIn
- @Hiroshima_Univ
- HiroshimaUniv

Instagramでキャンパスの日常を配信中



リニューアルしたフェニックスタワー

テニスコートに続く桜並木

Science Knot棟外観

式典に花を添える広島オペラによる合唱

Hiroshima University: Solemnly Inheriting a Mission of Profound Significance in Human History

We have entered the beautiful season of fragrant breezes. At the Higashi-Hiroshima Campus—designated by Japan’s Ministry of the Environment as a “Nature Coexistence Site”—the birdsong echoes from the fresh green treetops, evoking a vivid sense of life’s renewal. Amid this tranquil setting, the campus is quietly yet unmistakably filled with anticipation, as new symbolic hubs of knowledge continue to take shape. Standing at the forefront are two landmark developments: the “Science Knot” building, an innovation hub launched this spring, and the University of Idaho’s Hiroshima Campus, set to open this August.

The Science Knot building represents a powerful embodiment of the convergence of knowledge. It integrates the world-leading research center WPI-SKCM² (World Premier International Research Center for Sustainability through Knotted Chiral Meta Matter – i.e. Super Materials), with a collaborative research facility. This is a core hub under the Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology’s J-PEAKS program, where the wisdom of industry, academia, and government intersects. More than one hundred researchers gather in this space, transcending disciplinary boundaries in pursuit of academic excellence. The name “Knot” reflects a shared aspiration: to firmly interconnect diverse strands of scientific knowledge and weave them into new value.

Meanwhile, the University of Idaho’s Hiroshima Campus will launch a bachelor’s degree program conducted entirely in English, with a focus on cultivating globally minded talent in the field of semiconductors.

The partnership between our two universities dates back 75 years to the early days of our postwar reconstruction. In response to a request for support issued by our first president, Tatsuo Morito, the University of Idaho promptly extended its assistance, donating tree saplings, seeds, and books. Since that time, the bond between our institutions has been carefully nurtured through ongoing exchanges—including student exchange programs, and even the sharing of roof tiles from buildings damaged by the atomic bombing.

At the Kasumi Campus in Hiroshima City, construction is also progressing steadily on a vaccine and pharmaceutical manufacturing center—the first of its kind among universities in Japan—as well as on a new building jointly developed by HU and the Radiation Effects Research Foundation. Furthermore, at the Higashi-Senda Campus, the birthplace of Hiroshima University, we are working in collaboration with the City of Hiroshima to preserve and redevelop the former Faculty of Science Building No. 1, an important atomic-bombed structure, as the foundation for a new center dedicated to peace education and research.

Rising from the ashes of devastation, Hiroshima University has grown into one of Japan’s leading comprehensive research universities, now comprising 12 schools and 4 graduate schools, along with one research institute—the largest number among national universities in Japan. Our community includes more than 15,000 students, among them approximately 2,000 international students from 99 countries and regions, who engage in rigorous academic pursuits. Our alumni network, exceeding 250,000 individuals, plays leading roles across diverse fields worldwide. This remarkable journey stands as a testament to the unwavering dedication and tireless efforts of those who came before us, to whom we express our deepest respect and gratitude.

In today’s world, marked by profound uncertainty, armed conflicts continue unabated in regions such as Ukraine and the Middle East, casting a deep shadow over the global community. In such times, the responsibility borne by Hiroshima University—an institution that upholds the ideal of being a “University of Peace”—is heavier than ever before.

Since assuming the presidency, I have consistently upheld the guiding principle of “cultivating peace-pursuing individuals with an international mindset and a challenging spirit,” and have advanced with unwavering determination. Rooted in the world’s first atomic-bombed city, our university solemnly inherits a mission of profound significance in human history. With this responsibility firmly in mind, we are committed to forging ahead and opening new pathways toward a future filled with hope.

Shi Mitono

私を動かす原動力。 人生路を決める 自己の興味・関心に従う信念。

小さな成功の積み重ねが 自信につながる

越智 今回は、日本大学理事長で作家の林真理子さんにお越しいただきました。現在は多方面で活躍されていますが、子どものころは辛いご経験もされたのだとか。

林 中学時代はいじめられっ子でしたが、そんな辛い時期を経て、自分で行動できる人間になりました。いじめのように理不尽なことが起こると、人はその原因を自身の欠点に探そうとしますよね。欠点を見つけるのも大切なことですが、私は「自分はこんな扱いを受けるべき人間ではない」と信じて乗り越えてきました。

越智 困難を力に変えてこられたのですね。高校生活ではどのようなことに取り組まれていましたか。

林 放送部で活動していました。自力で原稿を書き上げるのが何より楽しみでしたし、昼休みの放送を待っている人がいること、彼らの喜ぶ顔を見ることが励みになりました。

越智 その当時から「書く」という行為に充足感を抱いておられたのですね。

林 ええ。高校を卒業するころには編集者を志していました。

越智 将来の進路を考える時、何がヒントになりますか。

林 自分が一番好きなことを考えていくと、自ずと複数の道が現れてきますよ。例えば、文章を書きたいなら、ライターや編集者の道があります。私の場合は、他人の評価とは関係なく自分の力に期待して、やりたいことに邁進してきました。

越智 その自信の源は何なのでしょう。

林 小さな成功の積み重ねです。例を挙げると、二つ

広島大学 学長

越智 光夫

Ochi Mitsuo



日本大学 理事長
作家

林 真理子氏

Hayashi Mariko



の経験が私の自信の源になっています。一つ目は、高校1年生の時に地元の山梨放送のディスクジョッキー(DJ)に選ばれたこと。DJの選考オーディションを見事通過し、アナウンサーと番組の進行役を務めたことがあります。二つ目は、大学1年生の時に作文コンクールで優秀賞に選ばれパリに行ったことですね。自分が書いた文章が誰かに認められたことが、自信につながったのです。

越智 そういった経験がない人はどうすれば良いのでしょうか。

林 いえ、誰もあるはずですよ。人気者だった過去や学生生活を思い出してください。必ず何かやりとげたことがあるはずです。それが自信の拠りどころになるでしょう。

越智 褒めてやり、「自分の未来はすごい」と信じさせることが教育の本質なのでしょうね。

林 高校時代の恩師が、当時「もしこの学校から有名人が出るとしたら、林だ」と言ってくれました。今でも辛い時に、この言葉を反芻しています。

越智 林さんの中で原動力になっているのですね。

日本大学理事長
作家

林 真理子 はやしまりこ

山梨県山梨市出身。日本大学芸術学部卒業後、コピーライターを経て、1986年に著書『最終便に間に合えば』『京都まで』で直木賞作家となる。2018年に紫綬褒章を受章。2022年より日本大学理事長に就任している。

広島大学 学長

越智 光夫 おちみつお

愛媛県今治市出身。広島大学医学部卒業後、整形外科に入局。1995年島根医科大学教授。2002年広島大学大学院医歯薬学総合研究科教授に就任。広島大学病院長を経て2015年から現職。2015年に紫綬褒章を受章。

ネットワークを活用し 学生へのサポートを拡大

林 日本大学では私の学外ネットワークを活用し、各界で活躍する文化人や専門家を招聘して「セレクト講座」を開催しています。これまで三谷幸喜さんなど卒業生のほかに、建築家の隈研吾さんや歴史学者の磯田道史さんなどにお越しいただきました。

越智 素晴らしい取り組みですね。広島大学では「世界に羽ばたく。教養の力」という講演会を実施しています。2025年度は睡眠学者の柳沢正史さんや脳科学者の茂木健一郎さんなど、世界で活躍されている著名人の方々にご講演いただきました。林さんは教育者として、本学にどのような印象を抱いておられますか。

林 「広島大学」という名前に高いプライドをお持ちの学生が多いと感じました。また、一人一人の学生に寄り添う環境があるとお見受けします。

越智 そうですね。例えば、本学では博士課程後期学生を育成する「広島大学創発的次世代研究者育成・支援プログラム(SPRING)」を創設し、約400人の大学院生を受け入れています。さらに、語学力向上のため、TOEIC® L&R IPテストを無料で受験できる環境を完備。結果、学部生の約25%、医・歯・薬学部生の約半数が730点以上のスコアを記録しています。

林 先ほどのホームカミングデーでオペラを企画した学生も本当に生き生きしていました。大学や広島という土地に思い入れをお持ちなのでしょうね。それに比べると日本大学は都市志向の学生が多いように思います。

越智 都会で学びたい気持ちも理解できます。都心と地方の大学間で連携し、両方で学べる循環型の制度を取り入れるのも良いのではないのでしょうか。

本を読む喜びを 若い人に知ってほしい

越智 林さんは直木賞作家としても活躍されています。私も『ルンルンを買ってうちに帰ろう』や『野心のすすめ』など、何冊もご著書を拝読し



理不尽な目に遭ったら、「そのような扱いを受ける人間ではない」と信じなさい。—— 林

ました。林さんの中で、特に印象に残っている読書体験はありますか。

林 小学生のころに読んだ河出書房新社の『グリーン版世界文学全集シリーズ』です。本を読めば頭が良くなる訳ではありませんが、何かを思考し、結論を出すまでのプロセスを本に教えられたと感じます。

越智 1日に原稿用紙30枚のペースで作品を執筆されているそうですが、相当な集中力が必要ではないでしょうか。

林 今は執筆活動はしていませんが、作家に必要なのは、学歴などよりも集中力だと思います。東京大学文学部卒の作家はあまりいませんが、浅田次郎さんのように高校中退でも凄まじい集中力を発揮し、学者レベルの知識量を蓄えて活躍する作家がおられます。

越智 なるほど。では、林さんにとって本から得られる喜びとは何でしょうか。

林 まず、本を書く喜びを与えられた私は、それを何よりの幸せだと感じています。他方で、読むことは私にとって呼吸のように自然で、なくてはならないもの。若い時に難しい作品にも挑み、咀嚼力を養ってきたからこそ喜びだと思います。スマホに時間を奪われがちな現代だからこそ、若い人にも本を読む喜びを大切にしてほしいです。

越智 林さん流の読書の楽しみ方はありますか。

林 学生時代は今川焼を買って帰り、貸本屋で借りた本を四畳半の部屋で読む時間が至福でした。そんな風に自分なりの小さな幸せと結びつけると、読書はさらに楽しくなると思うのです。

越智 最後に、広島大学の学生にメッセージをいただけますか。

林 私が19歳のころ、50年後の自分に向けたメッセージをアルバムに残しました。これから老いること、確実に死に直面することを書いたのです。大学生の皆さんは若いのです。その若さが永遠でないことを自覚して過ごせば、これからの自分が変わってくるはずです。

越智 メメント・モリ(自分の死を忘れるな)ですね。素晴らしいお話をありがとうございました。

H U TIME

旬なトピックを世界に届ける



研究成果が社会へ、広がる再生医療

越智学長開発の 自家培養軟骨移植治療が保険適用拡大 —変形性膝関節症に広がる再生医療の選択肢—

膝の痛みに対する
新しい治療の選択肢

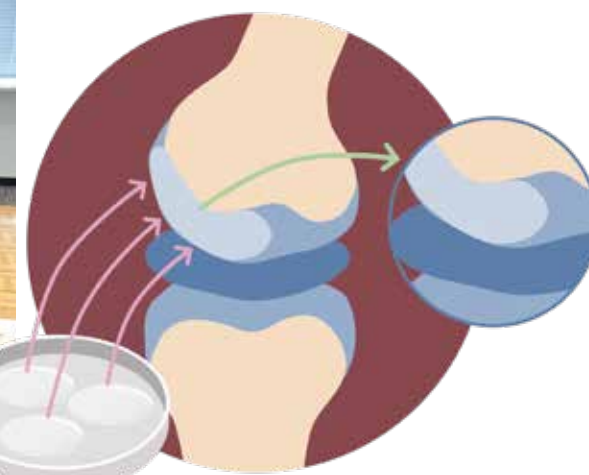
変形性膝関節症は、加齢などの影響で膝の軟骨がすり減り、痛みや腫れ、動かしにくさが生じる病気です。症状が進むと、歩く、立ち上がるといった日常の動作すら困難になり、生活の質が低下します。高齢化に伴い患者数が増加する中、2026年1月、広島大学の越智学長が開発・技術移転した「自家培養軟骨移植治療」が変形性膝関節症にも保険適用となりました。対象となるのは、運動療法や薬物療法を続けても症状が改善しない、一定以上の軟骨欠損がある患者さんです。国内に1000万人の患者がいるとされるこの疾患に対し、根本的な改善を目指す治療が、より身近な選択肢となりました。



保険適用となったのは、ジャパン・ティッシュエンジニアリング(J-TEC)が製造販売する自家培養軟骨「ジャック」です。患者自身の軟骨細胞を採取し、培養して移植する再生医療で、自分の細胞を使うため拒絶反応のリスクがないのが特長です。臨床試験では、国際的に用いられる評価指標で有効性が確認され、安全性も示されました。保険適用により自己負担額は月額6~25万円程度に抑えられ、これまで治療をあきらめていた方にも新たな道が開かれます。越智学長は1月に開かれた記者会見にて「膝関節の痛みで苦しむ患者さんに新たな治療の選択肢ができ、高齢化社会の医療に貢献できることをうれしく思います」と述べました。



記者会見でデモンストレーションを行う安達伸生広島大学病院長



自家培養軟骨移植治療のイメージ

HU MIRAI DESIGN

広島大学が描く、未来のカタチ

#4「働く」



社会を形づくる 営み

朝の一杯のコーヒーから
夜道を照らす街灯まで、
私たちの暮らしは
誰かの仕事によって形づくられています。
働くことは一見生きるための手段ですが
その本質は社会への貢献そのものです。

価値観の変化やAIの進化などに伴い
私たちの仕事の形も
大きな変化の最中にあります。
より楽しくやりがいをもって働ける未来が
この先実現されるかもしれません。
今回は、さまざまな観点から
労働の課題と未来について
考えてみましょう。

特集

広島大学が描く、未来のカタチ

誰もが輝ける
働き方を
見つめ直す

人生の多くを占める「働く」時間。
人々が安心して健やかに
働き続けるためには、どのような
意識や環境が必要なのでしょう。



いつになっても
安心して
働ける環境を
法律で実現

山川 和義 教授 大学院人間社会科学研究科 専門:社会科学、法学、社会法学

私は高齢者の雇用問題や、定年後の働き方を支える法的な環境整備について研究しています。現在、多くの人々が定年後も働き続けていますが、仕事内容が変わらないのに待遇が下がったり、培った能力を発揮できない環境に置かれたりする現状があります。これは長年積み上げてきたキャリアへの尊厳を傷つけ、経済生活を脅かす問題です。このようなトラブルを未然に防ぐため、会社側が待遇変化の理由を説明する法的義務を負うべきだと考えています。十分な説明を通じて労働者が納得感を得ることは、意欲を持って働き続ける

ための大きな一助となるからです。「働く」とは、賃金を得る手段であると同時に、自己実現や社会参加の重要な機会です。労働は本来雇用者と労働者の対等な契約に基づいたものであり、労働者自身がどのように働かを決めるという意識が欠かせません。今後は定年制の意義そのものを問い直し、「働かなければ生活できない」社会ではなく、「働きたいうちは働ける」生涯現役社会の基盤を築くための法政策を提案していきたいと考えています。年齢を重ねても誰もが安心して自分らしく暮らせる未来を、労働法分野から実現していきます。



予防・
早期介入により
働く人々の
心身健康を守る

岡本 百合 教授 保健管理センター
専門:医歯薬学、内科系臨床医学、精神神経科学

現代の労働環境において、過重労働や慢性的なストレスによる精神疾患の増加は深刻な課題です。私は、睡眠や心拍といった生理的指標を活用し、未病段階でのリスク把握や早期介入の研究に取り組んでいます。「働く」ことで、私たちは役割意識を通じてアイデンティティを形成し、自己効力感を得られます。精神疾患の発症を予防するためには、日々の小さな成果を記

録して「見える化」し、自分自身を肯定する習慣を持つこと、そして意識的に休息を取り、プライベートを充実させることが重要です。また、個人レベルのセルフマネジメントに加え、職場全体で心理的安全性を確保することも不可欠です。成果だけでなくプロセスを含めて部下を評価する、互いに助け合える文化を醸成するなどの工夫がメンタルヘルスの維持につながり、それが企業の価値を測る重要な指標になります。将来的に精神疾患は予防可能な健康問題と捉え直され、メンタルヘルスが社会資本の一つとして評価されるようになるでしょう。誰もが心身の健康を損なうことなく、働くことを通じてウェルビーイングを実感できる未来を支えていきたいです。



ヘルシーキャンパス宣言



広島大学では2022年にヘルシーキャンパス宣言を策定し、学生・教職員のトータルヘルスプロモーションに寄与することを目指しています

「働く」を問い直す 生き物に学ぶ未来の科学

生きるために「働く」のは人間だけではありません。

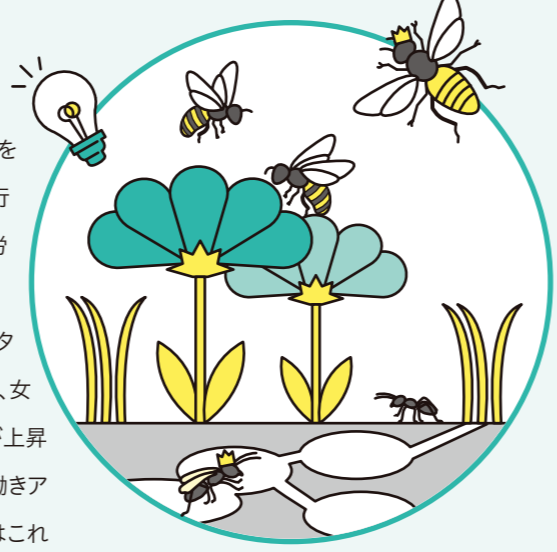
昆虫や爬虫類などの行動原理や身体の仕組みをヒントに、人間の「働く」を捉え直す研究に迫ります。

社会性昆虫の分業の仕組みを 遺伝子から探る

アリやハチなどの社会性昆虫の巣において、女王アリや女王バチは労働をせず、繁殖を担います。一方、多数の働きアリや働きバチは繁殖せず、幼虫の世話や採餌などの労働を行います。このような「分業」は社会的昆虫の大きな特徴ですが、同じ種でありながら、なぜ労働を担うものと担わないものが生まれるのでしょうか。

この謎を明らかにするため、我々は遺伝子解析によるアプローチを試みました。公共データベースで公開されている既存の遺伝子発現データをもとに、社会性昆虫34種を対象として、女王および働きアリ(ハチ)の実験データを258ペア収集しました。そして、各遺伝子の発現が上昇または低下しているかを分析し、発現変化を評価したところ、女王で発現が高い遺伝子と、働きアリ(ハチ)で発現が高い遺伝子を、合わせて20個特定できました。そのうち12個の遺伝子はこれまで繁殖の分業に関与するという報告がなかった遺伝子で、世界で初めての発見となりました。

これら12個の遺伝子が他の生き物ではどのような機能を担っているかを調べると、例えば働きアリ(ハチ)で発現が高い *quiver* と *GABA transporter* という遺伝子は、キロシヨウジョウバエでは睡眠の制御に関わると分かりました。今後遺伝子の機能解析が進めば、睡眠の調整が労働の有無にどう影響するか、新たな知見が得られるかもしれません。また、社会性昆虫の女王は長寿であることも知られています。繁殖能力の向上や長寿の仕組みなど、ヒトにも応用できる研究成果が期待されています。

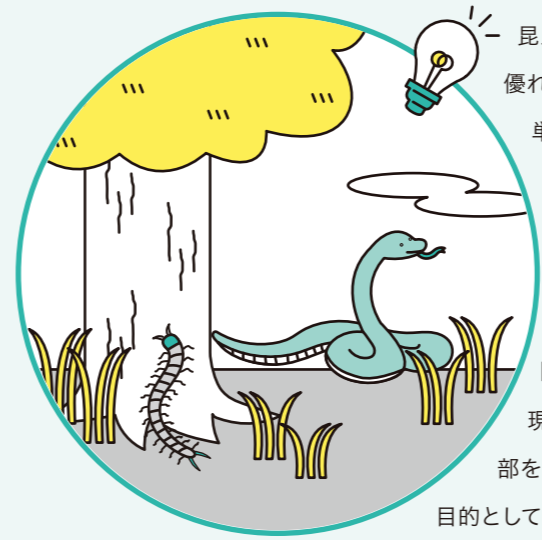
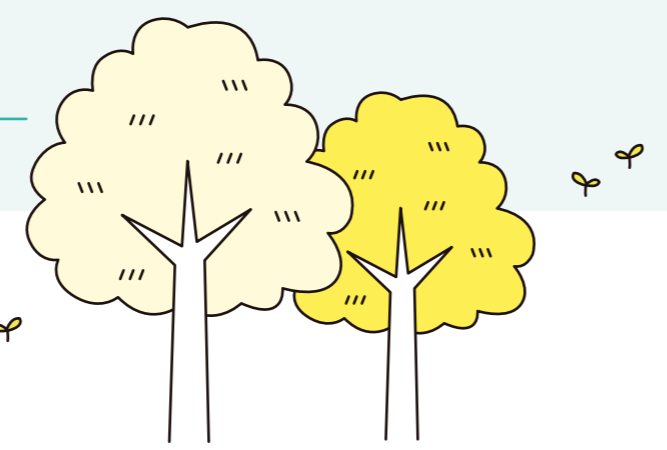


コンピューターを使用したデータ解析



坊農 秀雅 教授

大学院統合生命科学研究所
専門:ゲノム情報科学



身体性を数理で解き明かし 柔軟に働けるロボットを設計

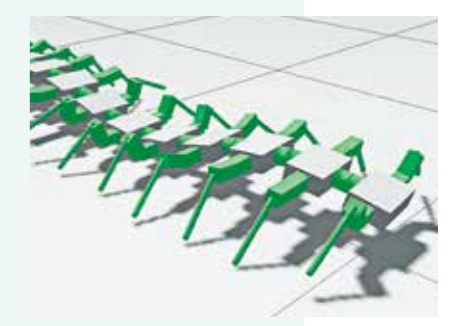
昆虫や哺乳類などの生き物は、多様な環境下で驚くほど機敏に動き回ります。私は、それらの優れた身体性を数理的に理解し、工学的な設計論として再構築する研究に取り組んでいます。単に形を模倣するのではなく、力学的メカニズムを数式で解き明かし、それをロボットとして実体化することを目指しています。

その一例が、高圧流体を噴射して浮上する「索状ロボット」です。レスキュー現場や火災現場などの閉鎖空間に侵入することを想定したロボットで、ヘビの身体構造を参考に開発しました。また、多足動物をモデルにした「多脚ロボット」は、人が立ち入れない災害現場の深部や、老朽化した複雑なインフラ内部を縦横無尽に移動し、状況を把握することを目的としています。研究の根底にあるのは「身体そのものに計算を担わせる」という設計思想です。コンピュータで膨大な計算を行って無理矢理に制御するのではなく、物理特性を生かして“自然と安定する”仕組みを数理的に導き出そうとしています。

現在、海外を中心にヒューマノイド開発が進められており、パルクールのような機敏な動きが実現可能になりつつあります。世界的にロボット開発が加速する中、いずれはある程度ルール化された環境では、ヒト型ロボットが人間に代わって働く未来も近いかもしれません。しかし、状況が刻一刻と変わる複雑な仕事にはまだ高い壁があると感じています。この壁を乗り越える鍵はAIの進化だけでなく、「身体そのものが持つ知能」にあると私は考えています。物理法則を味方につけたロボットが単なる道具を超えて環境に溶け込み、自律的に動くパートナーとなる。そんな未来の実現に、ロボット研究者として少しでも貢献できればと願っています。



流体噴射で浮上する索状ロボット先端部分

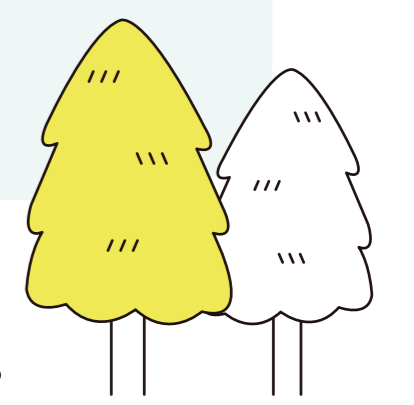
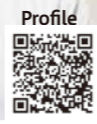


多脚ロボットのシミュレーション



安部 祐一 准教授

大学院先進理工系科学研究科
専門:工学、機械工学



可視化される心の動きの痕跡を追って

人は何に、どのように心を動かされるのか

わたし ざゆう めい 研究者人生を導く 私の座右の銘

最先端の研究に挑み続ける研究者たち。困難に直面した時や決断を迫られた時、そして成功の瞬間に彼らを導いてきた言葉とは何か。日本科学技術ジャーナリスト会議に所属するライターが、「座右の銘」から研究者の人となりを読み解きます。

座右の銘

無道人之短、無説己之長。
施人慎勿念、受施慎勿忘。

人の短をいうことなかれ、己の長を説くことなかれ。人に施してはおもうことなかれ、施しを受けては忘ることなかれ。



心の動きを記録する 評点本という読書のかたち

小説を読んで、映画を観て、心が揺さぶられる。でもなぜ自分の心が反応したのか、うまく言葉にできない。「人は何に、どのように心を動かされるのか」。その問いを手がかりに、人間社会科学研究科の川島優子教授は、中国明代(1368~1644)の小説を研究しています。

明代には、出版文化の広がりの中で、『三国志演義』『水滸伝』『西遊記』『金瓶梅』といった名作が次々と生み出されましたが、その多くは「評点」を伴う形で刊行されていました。「評点」とは本文の要所に印が付けられ、行間や余白に、当時の著名人らによる評価が書き込まれたものです。

こうした評点本の特徴は、物語とそれに対する評者の反応とが一体化している点にあります。小説は本来、評点とセットで読まれるものだったのです。読者は物語を読むと同時に、評者がどこにどのように心を動かされたのかを追体験し、それに触発されて自らの心も動かされていたのです。

評点がつくる読書空間 読みの生成と広がり

同じ作品であっても、評者ごとに異なる読みが書き込まれた多様な評点本が併存して流通していました。評点を通して、版元の方針や戦略が見えてくる場合もあります。読者の心の動きは、自然に生じるだけでなく、作られ、流通し、共有されるものでもあったのです。現代のSNSとも通じる側面があるかもしれません。

こうした明代の小説は江戸時代の日本にも伝来し、曲亭馬琴らの作品にも大きな影響を与えました。馬琴が読んでいたのも評点本であり、物語本体だけでなく、そこに付けられた批評からもインスピレーションを受けていたことがわかっています。

しかし近代以降、活版印刷されたこれらの作品からは評点を取り除かれ、文学研究も主として本文そのものの分析を中心に展開してきました。そのため、かつての読書体験の重要な要素であった評点は、十分に検討されてこなかったのです。

デジタル時代の古典研究 読書の歴史をたどる

近年、世界各地の図書館で古典籍のデジタル公開が急速に進み、明代に作られた版本そのものを調査することが容

易になりました。現在、川島教授の研究室でもこうしたデジタル資料を活用し、評点を含めた文学研究を進めています。広島大学図書館も世界的に貴重な古典籍を多数所蔵しており、デジタル公開に向けた準備を進めています。こうした環境の整備は、古典研究の新たな展開を支えるものです。

文学に触れるとき、人はどこで、どのように心を動かされるのか。その痕跡をたどることは、当時の文化や思想、流通の様相を明らかにすることであると同時に、人の感性や社会のあり方を問い直すことにもつながります。

川島教授の「座右の銘」は、まさに「座右銘」。そもそも「座右銘」とは、自らを戒めるために後漢の崔瑗(さいえん)という人によって作られた作品名で、唐に渡った空海によって日本に伝えられたと言われています。

その冒頭には、「無道人之短、無説己之長。施人慎勿念、受施慎勿忘。」という句があります。「『他人の短所を言い立てず、自分の長所を誇らない。施した恩は忘れ、受けた恩は忘れない』。この言葉を、いつも心に留めておきたい」と川島教授は語ります。



大学院人間社会科学研究科教授
川島 優子

かわしま・ゆうこ／広島大学文学部文学科中国語学中国文学専攻を卒業。広島大学大学院文学研究科在籍中に復旦大学(上海)に国費留学。龍谷大学文学部専任講師を経て、2011年に広島大学大学院文学研究科准教授、2019年に教授に就任、2020年から人間社会科学研究科教授。現在は広島大学図書館長を務める。

川島先生の息抜きは？

ほっと一息 Break time

映画やドラマを見ることで、凝り固まった頭を切り替えています。見終わった後は、他の人のレビューや感想を読んで、「こんな見方もあるのか!」「そこに気付いたか!」などと自分とは異なる視点や価値観に触れる。そのプロセスを含めた鑑賞体験がリフレッシュになっています。

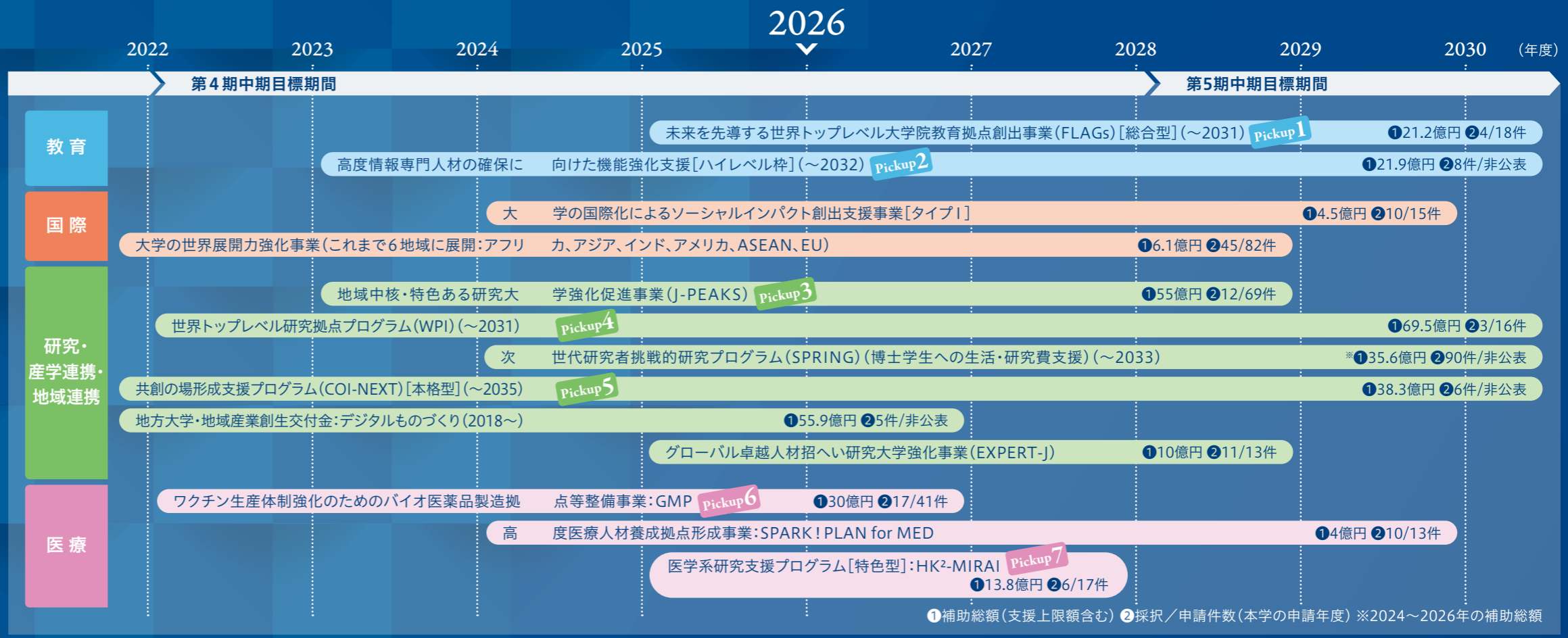


広島大学の全学改革が加速

大型外部資金を原動力に



近年採択された大型事業一覧



近年、複数の大型事業に連続して採択されたことにより、本学は「地域に根ざし、世界をリードする研究大学」への改革を着実に進めています。

Pickup 4 **世界トップレベル研究拠点プログラム(WPI)** 補助総額 69.5億円

取組 世界最高水準の国際研究拠点として、次世代材料科学をリード

事業名 持続可能性に寄与するキラルノット超物質拠点

中四国地域で唯一の採択

Pickup 5 **共創の場形成支援プログラム(COI-NEXT) [本格型]** 補助総額 38.3億円

取組 産学官連携により、海洋リモートセンシングを核とした新産業創出を推進

事業名 Bio-Digital Transformation (パイオDX) 産学共創拠点
海洋リモートセンシングを核とした海洋文化都市共創拠点

Pickup 2 **高度情報専門人材の確保に向けた機能強化支援[ハイレベル枠]** 補助総額 21.9億円

取組 デジタル・半導体分野を牽引する高度専門人材の育成

事業名 高度な研究力と専門知識を基盤にDXを牽引する高度情報専門人材の育成 ※事業名は誌面用に要約

中四国地域で唯一のハイレベル枠採択

Pickup 6 **ワクチン生産体制強化のためのバイオ医薬品製造拠点等整備事業: GMP** 補助総額 30億円

取組 大学として国内有数のバイオ医薬品製造・人材育成拠点を整備

事業名 広島大学ワクチン・医薬品製造拠点整備

大学で唯一の採択

Pickup 3 **地域中核・特色ある研究大学強化促進事業(J-PEAKS)** 補助総額 55億円

取組 産業集積と研究力強化を両輪で推進

事業名 放射光による物質の見える化技術を核とした半導体・超物質及びバイオ領域融合型産業集積エコシステムの実現

全国12大学の1つに選定

Pickup 7 **医学系研究支援プログラム [特色型]: HK²-MIRAI** 補助総額 13.8億円

取組 神戸大学、熊本大学と連携し、医療イノベーションの共同推進拠点を形成

事業名 広島・神戸・熊本 医療革新・研究共同推進イニシアティブ(HK²-MIRAI)

中四国地域で唯一の代表機関

HU PRISM

広島大学は、さまざまな形で社会とつながっています。
プリズムが光を分散させるように、
多角的な視点からその取り組みを映し出します。

世界への挑戦を支援する グローバルラーニングセンターが誕生



学内の組織・センターなどを
ご紹介します。

2025年10月10日、広島大学に新たなグローバル人材育成の拠点「グローバルラーニングセンター」が誕生しました。本センターは文部科学省に採択された「大学の国際化によるソーシャルインパクト創出支援事業」の一環として、広島大学・東広島市・スズキ株式会社による産学官連携のもと設立されました。

グローバルラーニングセンターでは、SALC(外国語学習支援)、多文化共修、海外留学支援を通じて、グローバル人材の基礎育成を担っています。「SALC(外国語学習支援)」では、講師や学生スタッフと少人数で英会話を始めとする多言語を体験します。学習者のレベルに応じた丁寧なサポートにより、着実な語学力向上を図ります。また、「International Party」や「International Night」ではゲームや自国文化の紹介を通して、日本人学

生と留学生が交流し、異文化理解を深める機会を提供。さらに、留学生や外国人研究者を対象に、初級レベルから日本語を学べる「The Japanese class」など、多様なプログラムを用意しています。加えて、留学アドバイジングでは、大学の留学プログラム経験者が留学プログラム・費用・期間・語学試験対応策等について相談に応じています。

本センターは広島大学西図書館3階に位置し、誰もが気軽に立ち寄れるガラス張りのオープンな雰囲気の魅力です。利用者からは「緊張したが温かい雰囲気で楽しく学べた」「自分の意見を英語で伝えることができるようになった」といった声も寄せられています。学生だけでなく、地域の方々も利用可能。ぜひ、グローバルラーニングセンターで世界への第一歩を踏み出してください。

グローバルラーニングセンターの
利用について詳しくはこちら >



グローバルラーニングセンター開所記念式典でのテープカット



施設を利用する
学生たち



西図書館の3階に開設



START-UP

広島大学発のスタートアップ企業取材。
創業理念や事業展開について伺いました。

振動を可視化する技術で 産業インフラの安全と効率に貢献

SYNRA株式会社 代表取締役社長兼創業者
広島大学大学院先進理工系科学研究科准教授
島崎 航平 さん

SYNRA株式会社は、高速カメラで撮影した高フレームレート映像とAIを組み合わせ、目に見えない微細な「振動」をリアルタイムで可視化認識する技術を開発・提供しています。通常、機械や建物の異常や劣化を調べるには対象物に多数のセンサーを付ける必要がありますが、私たちの技術なら離れた場所からカメラで撮影するだけで計測可能です。これにより、現場の作業時間を奪うことなく、産業インフラの点検の効率を飛躍的に高めることができます。

私が起業を決意したのは、大学での研究活動を通じて直面した大きな課題感からでした。莫大な研究予算が投じられているにもかかわらず、研究と社会実装の間には大きなギャップがあり、その橋渡しを担う人材が不足しています。研究者として論文の執筆も重要ですが、私は人々の役に立つ新技術を開発し、直接届けたいと強く願うようになりました。そこで、中四国18大学が参画する「Peace&Science Innovation Ecosystem」の支援を受けて、SYNRA株式会社を設立したのです。

当社の技術は、高温・高電圧など人が立ち入るには危険

な場所や、橋梁・鋼構造物など足場を組んで高所作業が必要になる場所、24時間稼働しており止められない製造ラインなど、従来は多数のセンサーや配線が必要だった現場で導入・検証が進んでいます。ただし、優れた技術があるからといって、必ずしも事業として成功するわけではありません。当社の強みをいかにビジネスモデルへ落とし込み、知的財産として守りながらクライアントと協業していくかを経営者として最も大切にしています。これからも当社が誇る広島大学発の最先端技術をグローバルに展開し、世界中の産業インフラと、現場で働く人々の安全性と効率化の向上に貢献していきます。

SYNRA株式会社への
お問い合わせはこちら >



ラップトップで動作する
画像振動可視化技術

これが私の人生の転機

博士課程在学中、デジタルものづくり教育研究センターの「スマート検査モニタリングプロジェクト」を立ち上げました。協力企業への訪問や研究環境の構築、教育コンテンツの作成などがむしやりに取り組んだこの時の苦労が、私の大きな原体験になっています。



人生を変えたセンサ系トップカンファレンスでの
ベストチューデントアワード

WE ARE FROM HIRODAI

私も広大です

広島大学を卒業・修了後、各業界で活躍されている卒業生の方々に、現在のお仕事と大学時代を語っていただきました。

AIで日本の産業課題を解決する

広大工学部発ベンチャー

工学部第三類出身

大西 洋さん

株式会社フツパー
代表取締役CEO

おおにし・ひろ／兵庫県出身。2017年広島大学工学部第三類を卒業。新卒で入社した日東電工を退職後、イスラエルで起業を試みるも失敗。その後中島工業株式会社で工場向けAI/IoTベンチャーの事業開発グループリーダーを務める。2020年に株式会社フツパーを設立。

【心に響いた人生の名言】

スティーブ・ジョブズ氏の「Connecting the Dots」の言葉が好きで、何事にも意味があると実感しています。例えば、大学で学んだ線形代数が、AI技術の理解に役立ちました。

アルバイトと

海外渡航で得た経験や

創業メンバーとの出会いが財産

起業を意識し始めたのは、中高時代に父から贈られた起業家らの著書を読んだことがきっかけです。名だたる起業家たちの多様な生き方に、あこがれました。

高校卒業後は広島大学工学部に進学し、一人暮らしを開始。工場設計などを学ぶ傍ら、社会経験を積むためにアルバイトに精を出し幾度も海外を訪れました。特に、社名のきっかけとなったイスラエルは、今でも鮮烈な思い出です。そして、後に創業メンバーとなる友人2人との出会

いは、在学中に得たかけがえのない財産です。卒業時には、自身の成長を実感できました。

メーカーに就職しましたが、産業界全体をデジタル化する必要性を強く感じ、IT分野での起業を決意しました。プログラミングやAIのスキルを磨きながら事業構想を練り上げ、2020年にフツパーを創業しました。

起業の成功には行動あるのみ。

大学時代にしか

できない経験を大切に

当社は主に中小製造業向けに、検査工程などを自動化するAIサービスや周

辺機器類を提供しています。現場の省人化を推進し、日本の喫緊の課題である「人手不足」の解決に取り組んでいるほか、より付加価値の高いサービスを展開していきます。現在は顧客数や社員数も増え、日々やりがいを感じており、海外進出に向けて準備をしています。

起業を成功させるコツは、早く行動して経験を積むことです。多様なプレイヤーがひしめく起業の世界で成否を分けるのは、行動力と経験です。とはいえ、焦って起業する必要はありません。せっかく大学に入学したのなら、学生時代にしかできない経験をたくさん積んでください。

WE ARE FROM HIRODAI

教育学部で養った

根拠を問う力と批判的思考

鹿児島県の種子島で育った私にとって、テレビは未知の世界への入り口でした。島にはないさまざまな風景に好奇心を抱きながらも、小学校教員である両親の影響で自然と教員を志すようになりました。高校時代の恩師に勧められ、在学中から教育の現場をより深く学べる広島大学教育学部へ進学。授業ではディベートの機会が多くありました。情報の裏付けを取りながら自分の考えを組み立てた経験や、情報を鵜呑みにせず多角的に捉える姿勢は、現在の仕事に大

いに生かされています。

教員を目指す一方で、心のどこかにアナウンサーへの憧れがありました。「夢を諦めないで、と生徒に胸を張って言う自分でいたい」と思い、就職活動の末アナウンサーの道を選びました。

伝える責任と向き合い

大切な情報を広く発信

現在はアナウンサー兼ディレクターとして、情報番組の企画立案から取材、原稿作成、オンエアまで一貫して担当しています。身近な環境問題や地域の伝統行事など、ネタ選びは完全に自由。視聴者が求める内容を考え抜いてテーマを

決定しています。放送後多くの反響が寄せられた際は、ニュースを伝える意義を実感します。

現代社会は、自分の関心に沿った情報が優先的に届く傾向にあります。その中で、テレビは「スイッチを入れれば興味の外側にある情報が飛び込んでくる」という、SNSには無い独自の価値を持っています。世の中の出来事を広く伝え、誰かの行動のきっかけをつくるのが私の使命だと考えています。

後輩の皆さんには、ぜひ一歩踏み出す勇気を持ってほしいと思います。「やらない後悔」より「やって得た学び」を大切にしてください。

大学で培った批判的思考をもとに 大切な情報を視聴者に届ける

【心に響いた人生の名言】

小学校の先生の「諦めるのは簡単だ」という言葉が印象に残っています。就職活動や教育実習などの苦しい場面で、ここで諦めたらきつと後悔する、と一歩踏み出す原動力になっていました。

教育学部出身

上釜 美憂さん

テレビ愛知
報道制作局 アナウンスグループ
アナウンサー

うらがみ・みゆ／鹿児島県出身。2020年広島大学教育学部を卒業後、岩手朝日テレビに入社。2023年テレビ愛知へ移籍。「5時スタ」「クルマとミライ」「メリおっと!たいそう」などの番組を担当。

TXN
テレビ愛知





勉強や課外活動などに励む広島大学の学生たち。個性あふれるキャンパスライフを深掘りし、リアルな姿をお届けします。

パシャっと! Campus snap



ミライクリエの三河屋珈琲でブレンドコーヒーを頼み、贅沢な気分を味わいます。



作業に行き詰まった時、川沿いのベンチは一息づくのに最適です。

法的知見と国際的な視点で社会に貢献!

アリウナ・
ARIUNAA
マラル
MARALさん

法学部3年（取材時）
出身国：モンゴル



作曲における表現の幅を広げたい

パシャっと! Campus snap



モダン空間SENDA LABのカフェのような雰囲気がお気に入りです。



BIBLA Sendalは個人学習にも共同作業にも最適！椅子や机を自由に動かせます。

国際学生模擬裁判で 受賞して見つけた 次なる目標

架空の事案をテーマに、実際の裁判と同じように学生が英語で口頭弁論などを競う学生模擬裁判「STETSON国際環境法模擬裁判競演大会」。民法ゼミの先生に勧められ、東アジア地区ラウンドに出場しました。

今回のテーマは「絶滅種復活の文脈における事前情報に基づく同意と利益配分」。

数百年前に絶滅した動物の復活プロジェクトを巡り、A国で発見された化石のDNAをB国が無断で利用することが争点となりました。私たちのチームはこれまで学んだことのない遺伝資源の利用に関する国際法や条約、判例、さらにバイオテクノロジーの技術的背景まで徹底的に調査して、主張を構築しました。結果、参加9校10チームのうち、チームでSoongsil's Bronze Medal（銅賞）、個人では優秀な弁論者に贈られるSecond Oral Awardを受賞しました。この経験から、短時間で膨大

な情報の中から必要なものだけを探す力が身に付きました。同時に、弁論の際に相手チームの論理の組み立て方や裁判官への返答から、新たなアプローチ方法を吸収できたのも大きな収穫でした。今後は、本大会で培った国際的な視点を生かして母国モンゴルの法制度への理解も深め、具体的な社会課題の解決を目指していきます。



最も権威ある 日本音楽コンクール 作曲部門で第1位

作曲家としての実力を確かめようと、日本で最も伝統と権威のあるクラシックの大会「日本音楽コンクール」に出場しました。今回作曲した『Baroque Grid IV』は、8つの管弦楽器で演奏する作品です。ユニゾン（斉奏）を「秩序」と捉え、そこから個がズれていく過程を描きました。「衝突」や「対立」を経て、最終的には各楽器が個を

発揮しながら支え合う姿を提示することで、多様な価値観が共存する現代社会の在り方を示唆しています。この作品で、作曲部門（室内楽曲）第1位を受賞しました。

自分の作品を第一線の演奏者に奏でいただき、その響きから作品のフィードバックを得る、非常に貴重な機会となりました。

大学院では、作曲家で音楽教育研究者の徳永崇先生のもとで、音楽教育におけるICT活用について研究しています。教育の視点から作曲を捉え直す日々は、私の表現に深みを与えてくれています。今後

とく だ てる あき
徳田 旭昭さん

大学院人間社会科学部研究科
博士課程後期2年（取材時）



は、オーケストラ作品をはじめとした大規模な編成の作曲に取り組み、表現方法を拡張していきたいです。さらに、地方での作品発表や海外の有名なコンクールへの挑戦も視野に入れ、新たな音楽の形を世界に発信し続けようと思います。

広大学生の1日

見てみん?

印象的な授業から空きコマの過ごし方、気になるサークル活動まで。広大学生のリアルな1日の過ごし方をインタビューしました。



タスクごとの時間を決めて、作業を効率化!

はぎもと しゅうえい
秋元 柊瑛さん 経済学部4年

Q 印象に残っている授業は?

「公共経済学」の授業です。人の行動を数学的に一般化して分析するというもので、少し難しい内容ですが、他の授業の理解にもつながるので面白いです。

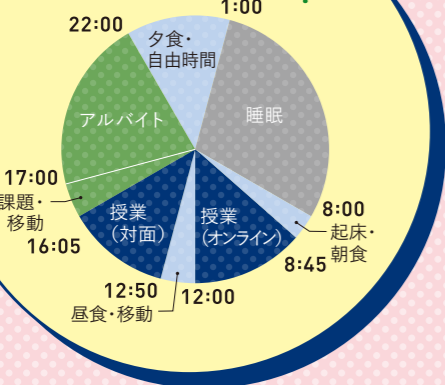
	MON	TUE	WED	THU	FRI
1	心と社会		教養としての金融		
2				ゼミ (ゲーム理論)	
3	ファイナンスIA		知能とコンピュータ		日本経済史2
4					
5					

Q 部活は何してる?

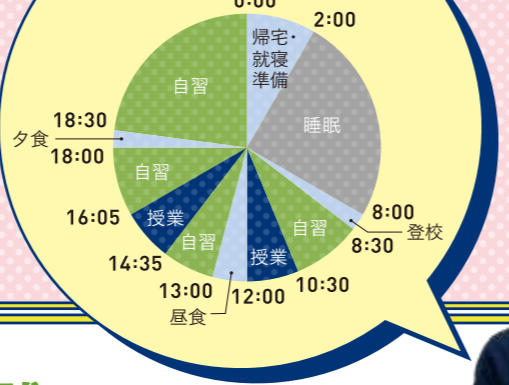
写真部に所属しています。月に1回、撮影小旅行に行ったり、大学祭で写真の展示を行ったりしています。のんびりとした雰囲気ですが、写真には真剣に向き合っています。



秋元さんの1日



藤原さんの1日



毎日同じ時間に起きて、生活リズムを整える!

あらかわ そうた
荒川 創太さん 情報科学部3年

Q 空きコマの過ごし方は?

図書館や空き教室で、友人と課題に取り組んだり、講義の復習をしたりしています。また、学期末には、友人と長期休暇中の旅行の計画を立てるなど、楽しく過ごしています。

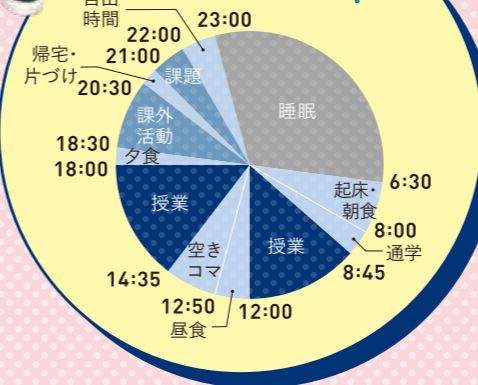
	MON	TUE	WED	THU	FRI
1		デジタル回路設計	機械学習	アルゴリズムとデータ構造	オペレーティングシステム
2					
3					データ科学とマネジメント
4		プログラミングIV		多変量解析	
5	システム最適化		システム最適化		

Q どんなサークルに入ってる?

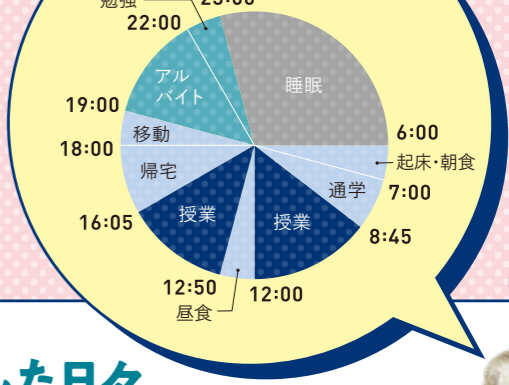
モノづくりサークル「学生フォーミュラ Phoenix Racing」に所属しています。自分たちで車両を制作し、実際に運転もしています。企業の方とのつながりもあり、貴重な経験ができます。



荒川さんの1日



松木さんの1日



司法試験に向けて全力投球!

ふじわら しおり
藤原 汐星さん 法科大学院3年

Q 昼食のおすすめ場所は?

東千田キャンパスにある、食堂「バナダイニング」です。副菜の種類が豊富で、中でも「ほうれん草のやみつきナムル」がおいしく気に入っています。

	MON	TUE	WED	THU	FRI
1					
2	刑法演習2	行政法2	民事訴訟法	刑事訴訟法	民事訴訟実務基礎
3	憲法演習2			労働法2	
4		民法演習3	商事法演習		
5					

Q キャンパスの魅力は?

東千田キャンパスは校舎が新しくきれいで、図書館などの複数の勉強場所があります。法曹や公務員を目指す学生たちが集中できる環境が整っている点が魅力です。



勉強にアルバイトに!充実した日々

まつき ななみ
松木 七海さん 医学部保健学科4年

Q 上手に時間を使う秘訣は?

メリハリをつけることです。勉強は時間を決めて集中して取り組み、アルバイトや友人とのオフの時間は思い切り楽しむ。そうすることで充実した日々を過ごせます。

	MON	TUE	WED	THU	FRI
1	精神健康障害看護	成人健康障害看護	地域子育て支援論	小児看護方法演習	学校保健演習
2					
3	保健統計学	臨床看護シミュレーション演習		老年看護方法演習	講習衛生看護学II
4	疫学		公衆衛生看護学I		学校保健演習
5					

Q 印象に残っている授業は?

「臨床看護シミュレーション演習」です。臨床場面を再現した授業で、実践的な知識や技術を身に付けられます。同じ目標に向かう仲間と支え合い、学びを深めています。



HUTOPICS

全12学部・4研究科・1研究院から注目トピックをピックアップ。広島大学の最新情報を紹介します。

学部情報

大学院情報

大学の動き

西日本で唯一！総合科学部、理学部、生物生産学部の3学部が文部科学省の「国際競争力けん引学部」に認定

広島大学は、文部科学省が新たに創設した「国際競争力けん引学部」認定制度において、総合科学部、理学部、生物生産学部の3学部を申請し、このたび認定を受けました。本制度は、日本の大学が国際的な教育研究力を強化し、優秀な外国人留学生の受け入れと、日本人学生との共修を通じて、グローバルに活躍できる人材を育成することを目的としたものです。西日本では本学のみが認定されました。

今回の認定により、対象3学部では収容定員管理の特例が適用され、優秀な外国人留学生を計画的かつ戦略的に受け入れることが可能となります。これにより、国内外の学生が専門教育の中で共に学び合う環境が一層充実し、世界の大学と互角に競い合える教育・研究の質の向上が期待されます。加えて、日本人学生にとっても、学内における国際交流の機会が拡大することとなります。多様な価値観や文化的背景を持つ学生と共に学ぶことで、国際的なコミュニケーション力や課題解決力を養う教育環境がさらに強化されます。本学は今後も、国際的な競争力を備えた教育研究拠点として、世界に開かれた大学づくりを推進していきます。



総合科学部

全日本フランス語プレゼンテーション大会(主催:京都外国語大学フランス語学科)優勝・準優勝

2025年11月29日に京都外国語大学で開催された第7回全日本フランス語プレゼンテーション大会(主催:京都外国語大学フランス語学科)で、総合科学部4年生の五家由祐子さんが優勝し、同じく総合科学部4年生の住田真珠さんが準優勝に輝きました。



教育学部

探究×共生フレンドシップを東広島の子どもたちと実施！

ルーツの異なる子どもたちが東広島市教育文化振興事業団と連携した「ジギョウダンのふしぎ発見！東広島スクープハンターズ」として探究活動を実施しました。初等教育学プログラムの学生が企画し、1月から2月に東広島市内の小学生と公共施設を訪問。子どもたちは東広島まるひネットへの記事を作成し、学びを深めました。



経済学部

独占禁止法教室を開催しました

1月27日に公正取引委員会による独占禁止法教室を開催しました。独禁法の意義や競争政策について事例を交えた解説が行われ、職務内容や働きがいも紹介されました。学生たちは公正な競争の重要性と公取委の役割について理解を深めました。



文学部

「アジアの呪術・儀礼・神話」をテーマに公開講座を開催しました

「アジアの呪術・儀礼・神話」をテーマに、文学部講義室を会場として3日間の公開講座をハイブリッド形式で開催しました。対面・オンライン共に多くの参加があり、講演後には専門的な質問や感謝の声が続くなど活発な交流が生まれました。



法学部

STETSON国際環境法模擬裁判競演大会東アジア地域ラウンドにて法学部学生が入賞しました

2025年11月に韓国・崇実大学にて開催された「STETSON国際環境法模擬裁判競演大会東アジア地区ラウンド」に法学部から2チームの学生が出場し、Soongsil's Bronze Medal(銅賞)やOral Awardなど優秀な成績を収めました。



理学部

理学部C棟下層階がリニューアルされました

理学部C棟下層階の改修工事が完了し、講義室や実験室などがリニューアルされました。明るく快適な環境となり、学びの場としてより一層使いやすくなっています。今年度にはB棟の改修が予定されています。



医学部

「白着衣式」を挙りました

医学科4年生が臨床実習を前に白着衣式に臨みました。式典では、医学部長より学生代表へ白着衣の着衣が行われました。学生代表からは、臨床実習に臨む決意と感謝の言葉が述べられ、学生一人一人が新たな使命感と自覚を深める機会となりました。



歯学部

歯学部60周年・口腔健康科学科20周年記念講演会・祝賀会を開催

歯学部60周年・口腔健康科学科20周年記念講演会・祝賀会を開催しました。講演会では卒業生講演や学内研究者の発表を実施し、祝賀会では名誉教授や同窓生と交流を深め、これまでの歩みを振り返り、今後の発展について共有しました。



薬学部

X(旧Twitter)の広島大学薬学部公式アカウントを開設しました

広島大学薬学部では、X(旧Twitter)の公式アカウントを開設しました。薬学部の入試情報や、教育・研究に関する最新情報、日常の気付きなど、幅広く発信しますので、ぜひご覧ください！



工学部

「EMaT(工学系数学統一試験)」実行委員長賞表彰式を開催

EMaTは工学部生の数学力向上を目的とした工学系数学の統一試験。本学と山口大学の共催で毎年12月に実施しています。2025年度は全国23の大学・高専が参加し、約1,278人が受験しました。2月には、実行委員長から広島大学の成績優秀者に対し賞状や副賞の授与を行いました。



生物生産学部

韓国の大学生・高校生を受け入れました

5日間にわたり、国際交流協定校である全南大学の学部生とインターンシップとして参加した高校生30人を迎え「The 3rd HU-CNU Bilateral Workshop for Hydrosphere Sciences」を実施しました。プログラムワークや交流イベントを通じて、本学部生との交流を促す良い機会となりました。



情報科学部

国立大学初のコーオプ教育、第1期生が今春卒業

大学に在籍しながら企業で実務を経験するコーオプ教育が完成期を迎え、今春、第1期生が卒業しました。3年次と4年次の2度にわたる企業での長期有償実習と、現場の課題を大学で深める「学び直し」を完遂。即戦力として社会へ羽ばたく姿を報告会で披露しました。



統合生命科学研究科

羽倉義雄教授が分科会技術賞を受賞

本研究科の羽倉義雄教授が、日本粉体工業技術協会 分科会技術賞を受賞しました。食品の品質や加工特性を科学的に評価・利用する食品粉体技術の研究に長年取り組み、その成果が粉体工学分野の発展に貢献したことが認められました。



羽倉教授のインタビューページはこちら

医系科学研究科

第1回研究交流会「Kasumi-Nexus」を開催しました

2025年10月17日に研究交流イベント「Kasumi-Nexus」を開催し、研究紹介7題、医系科学研究科長賞対象18題の発表がありました。霞キャンパスの学生・教員ら計152人の研究者が参加し、活発な意見交換を通じて研究者同士の交流を深め、共同研究の新たな可能性を広げることができました。



人間社会科学研究科

井戸川豊教授が令和7年秋の紫綬褒章を受章しました

令和7年秋の褒章において、井戸川豊教授が紫綬褒章を受章しました。井戸川教授は、陶芸という伝統工芸分野において、「銀泥彩磁(ぎんでいさいじ)」と呼ばれる高度な装飾技法を研究と作品制作の両面から体系的に探究し、工芸界に新たな潮流を生み出しています。



スマートソサイエティ実践科学研究院

新しいプロモーション動画「スマソって?」を公開

研究院の6つの研究領域それぞれにスポットを当てた紹介動画が完成しました！スマホで行われている多様な研究シーンを散りばめ、領域ごとの魅力を感じていただけるショート動画となっています。ぜひご覧ください。



先進理工系科学研究科

ランチョン・オープンセミナーを開催

海外の研究者が来日する機会を利用し、学生・教員らに国際研究交流の場を提供することを目的に、ランチョン・オープンセミナーを開催しました。今後も継続的に実施し、国際研究交流の常態化と国際研究者とのネットワークを形成していきます。



部活動・サークル紹介

広大生のアクティブライフ!



2024年 9月 インカレ 6位入賞
2025年 5月 朝日レガッタ 3位入賞
2025年11月 関西秋季選手権 優勝 など

漕艇部

一漕一心

ボート部は、大学から始める人がほとんどなので初心者も安心して挑戦できます。仲間と息を合わせ、心を一にしてゴールを目指す瞬間が最大の魅力。努力が結果につながる達成感も味わえます。新しいことに挑戦したい人、最高の仲間と出会いたい人におすすめ。一緒に水上で最高の青春をつくりましょう!

ほとんどの部員が大学からスタート!新しいことに挑戦しやすさ、部活仲間!



部員数 活動日
17人 週6日(月曜オフ)
平日は各自任意の時間で練習を行う
土日は市内の艇庫(合宿場)で練習

興味のある活動に、好きなだけ参加できます!



2025年度 無人島の清掃活動(宇治島)に関して広島大学副学長表彰
2025年度 無人島の清掃活動(宇治島)に関して福山市から感謝状
2025年1月 第15回わくわくママチャリ3時間耐久レース 2位
2026年1月 第16回わくわくママチャリ3時間耐久レース 優勝

探検部

あなたが気になったあれこれ、一緒に探検しませんか。

「無人島」「洞窟」と聞くと過酷なイメージがあるかもしれませんが、実際はそれほど身構えずに楽しむことができます。メンバーは普段から緩いスタンスで活動しています。また、探検部では、やりたいことを何でも活動にできます。「興味のあることに限界まで挑戦してみたい」という方にも「気軽に新しいことに取り組んでみたい」という方にもおすすめです。



部員数 活動日
52人 活動は主に週末、長期休業
毎週金曜日18時~18時半に総合科学部棟
K310(もしくはK312)で部会



部員数 活動日
34人 月1回 9時~16時
第3日曜日
八本松正力で活動

自然活動サークル “学びの里”

「地域×子ども×自然」に関わり、みんなで楽しみ、いろんなことを学んでいくサークル

里山での自然体験を通して学びを深め、地域の方々や子どもたちとの交流で達成感や成長を味わえるサークルです。先輩後輩の壁もなく温かい雰囲気があり、活動を通して世代を超えたつながりも広がります。自分のやりたい自然体験を形にできる、主体的で楽しい場です。「地域×子ども×自然」に一つでもやってみたいことがあてはまったらぜひ、学びの里へ!



Campus Gallery

HU photos

Instagramで#広島大学の付いた投稿からお届けします。



投稿者 hirodai_josaka さん
#広島大学 #女子サッカー部 #卒業式

ひろティー活動記録



海外短期研修「START+プログラム」でエジプト日本科学技術大学(E-JUST)やピラミッドを訪問!現地の学生との交流や講義を経て、エジプトの歴史・文化を学べたよ!

広島大学にまつわる写真を#広島大学を付けてInstagramに投稿してください。テーマは何でもOK! 素敵な写真をお待ちしています。

投稿募集中!



投稿が掲載された方には
広島大学
オフィシャルグッズ
「トートバッグ」をプレゼント

WEBアンケートにご協力ください

読者の皆さまからのご意見、ご要望、情報提供をお待ちしております。いただいたアンケート内容は、今後の誌面づくりに活用させていただきます。



WEBアンケートはこちら

HU-plus 検索

読者プレゼント

アンケートにご回答いただいた方の中から抽選で合計9名様にプレゼント!

※応募締切:2026年8月31日必着 厳正な抽選の上、商品の発送をもって当選の発表にかえさせていただきます。

A 新書(サイン入り)

『西洋の敗北と日本の選択』
エマニュエル・トッド著
(文春新書)



5名様

B HUオリジナルグッズ

「ドライTシャツ」Lサイズ



1名様

C 漫画

『ヒロ子さんと巡る広島大学』
弘兼憲史・ヒロカネプロダクション作画
(広島大学出版会)



3名様

この瞬間がアツいんだ。OTAFUKU
毎月10日はお好み焼の日

Balcom Group
TRIUMPH V
SUZUKI

にしき堂
瀬戸内の八朔
せとこまち

広大さんぽ



2



1



3

5月のキャンパス、音の風景。

若葉が陽光を受けてきらめく5月。広島大学のキャンパスにはこの季節ならではの音があふれています。芝生を渡る風の気配、行き交う自転車の軽やかな走行音、部活動のかけ声やボールを打つ乾いた響き、成鳥間もないウグイスの拙い囀り。目に映る景色の奥に、幾重にも重なる音の層があります。新緑の中、耳を澄ませて5月の広大をさんぽしてみませんか。

① 新緑の並木道

若葉がきらめく並木道。風にそよぐ葉擦れの音と、足もとに続く軽やかな足音が、5月のリズムを刻みます。木陰を抜けるたびに、季節の息づかいが感じられます。

② テラスで語らう学生たち

風が心地よく抜ける屋下がりのテラス。交わされる言葉と笑い声が重なり、学生たちの時間が、5月のキャンパスに穏やかな音の風景として刻まれます。

③ サッカー部の練習風景

芝生を駆ける足音と、ボールを弾く軽やかな響き。掛け声や笑い声が広がる中、木々のざわめきがそと寄り添います。5月のキャンパスは、にぎわいとやすらぎが心地よく交差します。



100年後にも世界で光り輝く大学へ

広島大学

編集・発行：広島大学 広報室

〒739-8511 東広島市鏡山1-3-2 TEL:082-424-4383 FAX:082-424-6040

E-mail:koho@office.hiroshima-u.ac.jp

<https://www.hiroshima-u.ac.jp>

